

## 平成30年度 第1回学校運営協議会議事録

日時:平成30年4月25日(水)19:00~20:30

場所:秋津小学校 2階会議室

司会:教頭・小関 記録:河村

### 【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	9	社会福祉協議会秋津支部長	吉田 秀忠
2	秋津小学校PTA会長	小西 正大	10	市教育委員会指導課長	荒井 英治
3	秋津小学校PTA副会長	田中 里枝	11	市青少年センター所長	渡辺 雅和
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	12	秋津小学校校長	鈴木 俊哉
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	13	秋津小学校教頭	斎藤 信幸
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	14	秋津小学校教務主任	河村 幸枝
7	学校支援ボランティア代表(情報)	小関 秀夫	15	秋津小学校生徒指導主任	砂押 恭平
8	学校支援ボランティア代表(環境)	桑名 英一			

I 習志野市教育委員会から 進行:笹生指導主事

#### 1 辞令交付

#### 2 学校教育部より(指導課 課長 荒井 英治)

人事異動の関係で本年度指導課長となりました荒井です。実は新任が第七中学校でした。そのころの教え子と未だに交流があります。この地域にはご縁があると感じております。子どもたちの健やかな育成の実現にむけ、学校・地域・行政が協力していきたいと思っております。一年間よろしくお願ひします。

#### II 学校運営協議会委員 自己紹介

自己紹介を行う

#### III 第1回学校運営協議会会議

##### 1 役員選出

委員長:小関 秀夫

副委員長:小西 正大

##### 2 報告事項

(1)平成29年度 第3回学校運営協議会 議事録・・・資料1

教頭～資料に基づいて報告

(2)平成30年度 第1回パートナー会議議事録・・・資料2

教頭～資料に基づいて報告

##### 3 協議事項

(1)平成30年度学校経営の基本方針について……………資料3

・学校経営方針 一学校経営の全体構想・校内組織・指導重点と評価

校長～資料に基づいて提案

(小関)若い先生が多いとのこと。25%が若い教員ということだがどのように指導力を向上していくかが課題である。また教員のモラル向上も必要。道徳教育の充実も含めしっかりと課題として意識していただきたい。

(伊坂)この会議では決定することはできないが、もう少し情報として共有したいことがある。

一つめ 750名の新規採用があった。まったく講師経験がなく採用された教員にはどのように研修を行っていくか。具体的にはどのように行っていくか。

二つめ 新しい学習指導要領の改訂にむけて、この時点で校長先生が考えていることはどのようなことか。

(校長)今年度の新規採用は1名で昨年度も本校で講師として働いていた経験がある。新規採用職員に関しては、学校はもとより県でも研修を行っている。若い教員の中で講師に関しては県の研修がないので校内の研修に取り組んでいる。ベテランの教員が若い教員が指導することも含めている。本年度は退職したベテランの職員が少人数という形でクラスに入り、若い教員に対して毎日のようにアドバイスを与えている。

新学習指導要領については、外国語活動が3年生から入ってきた。本年度は中学年15時間、高学年50時間ALTと英語専科で取り組み始めている。道徳は教科という形になったのでこれから先の評価にむけて学校で検討し進んでいく。教科としての道徳だけではなく学校全体を通して道徳活動を進めていく。

(伊坂)外国語活動、外国語科、道徳、それだけではなく学び方の改革がされているのでアクティブラーニングのように表面的なところだけではなく学び方の改革をされていってほしい。次回はもう少し方向性を示してほしい。

(伊藤)校長先生はモラルアップについて、モラルだけを強調しているように感じた。モラルだけではなく幅をもたせてやっておきたい。

(校長)学校ではモラルを中心にやっていきたい。先生方が明るく元気でないと子供も笑顔になれない。

(吉田)教職員の労働環境に関して国や市も改善していかななくてはならないのでは？もしかしてこれが一番の要諦ではないか。これは市の行政の大枠のなかでしか変更できないかもしれないが、校長の裁量でできることはないか？

(荒井)基本的に世の中は働き方改革が喫緊の課題。昨今、教員の超過勤務が話題になっている。中学校は部活動ノJ、学校には部活動はないが、さまざまな要因のなかで学校長のリーダーシップのもと事務処理の軽減等行っていく必要がある。

(校長)教頭や教務主任と話したことだが、教職員には教材研究に一番時間を割いてほしい。いろいろなことをやりたがるが、それをやっていると時間が削減され教材研究ができなくなる。もし新しいことをやるなら削ることも考え、これから秋津小の中の取り組みを見直していきたい。

(小関)やるが増えているのに人が増えていない。これは教育委員会のレベルではない。先生方の給料や残業なども検討されている。このままどうなっていくのか。

(伊坂)コミュニティスクールのために時間をとられていると教員が負担を感じているのでは？教務主任を中心に教員が意見を集約し改善してほしいと感じている。

(渡辺)働き方改革のなかではあるが、6年生は毎日6時間授業である。子供を帰したらすぐ会議や研修というのが現状である。今年度は生徒指導委員会を減らした。減らすことにとって滞るのまいかがなものと考えることもある。  
秋津スタイルについては、だれがどこの教室に入っても同じことができるものを考えてきている。掃除のしかたなどを写真で示すなどして取り組んでいる。

## (2) 今後の活動方針について……資料4

### ①教頭～学校評価関係について資料に基づいて提案

(伊藤)伊坂先生がいつもおっしゃっているが、教職員の自己評価について検討の余地があるのではないだろうか。

(伊坂)アンケートそのものは評価ではない。あくまでも参考資料。改善点を見つけ今後の方針をみつけるものであるのに、評価をださなくてはいけないからやっているところがある。評価をみて良いか悪いかではない。それをもとに校長や職員がいかに考えていくかが大切。  
昨年度までのを見ていると、保護者に一度やって、またやるのはいかがなものか。学校評価のガイドラインにそこまではのつていないのでは？関係者評価は外側にむいていくものなので学校としてはそこまでいいのでは？ご自由にご意見をお寄せくださいいいのでは？

(荒井)学校長の判断で行うものなので、特に指導課からの意見はない。

(教頭)せっかくの貴重なご意見をいただいたので今後、改善にむけて取り組んでいきたい。

(校長)学校評価については検討させていただきたい。それによって評議会の内容も変わっていく。第2回の内容を検討させていただく方向でよろしいか。

### ②河村(教務主任)～本年度の取り組みについて提案……資料5

(玉井)授業参観では、空き教室をみることにしている。教室が荒れていると学級が荒れている。最近はきれいなので落ち着いているように感じる

(伊坂)秋津小学校は教員集団として一体になっているのが良い方向だと思う。それをアピールする力、秋津の良さをもっと広く外に向けて、発信力をもつことも価値あることだと思う。一体感を持って取り組んでいるように感じる。

公開研究会については、体育を研究していると技術的な向上が目的になってしまうことがある。マイナスではなくプラスと考え、うまく発情してほしい。うまく伝わらないと負担になってしまう。

(小関)公開研究会の話は、目的や内容はあまり情報発信されていない。技術の習得だけではなく研究の内容についてなど情報の量も質も発信してほしい。

(伊坂)研究が公開研究会のためだけの取り組みではないよということを発信してほしい。それにしても11月の周辺の行事が目白押しでたいへんであろう。秋津っ子マラソンも公開目的でないことを発信してほしい。

(小関)コミュニティスクールについても、もっと発信してもいいのでは？たくさんの方々の支援があるので。

【協議事項(1)(2)について:承認されました】

#### 4 その他

(小関)協議事項は終わったが、学運協について何かあればご意見としていただきたい。

(吉田)雑談程度に聞き流してほしい。学校がどんなところかというと教育現場である。「思いやり」「感謝」という気持ちをもっと伝わってほしい。卒業式に参加すると旅立ちとか希望とかばかりが強調されている。育てていただいた人たちへの感謝が表れてこない。感謝という気持ちを授業の中で育てていただきたい。「お陰様」という言葉をもっと子供たちに伝えてほしい。

〈校長〉3つの「あ」であきつあいさつありがとうで行っている。

(小関)PTAの立場からご意見はあるか。感想は。

(田中)今回の会議に出席し、先生方がすごいけいへんだなと感じた。母校なのだが、本当によくなってきたように感じている。

(教頭)次回の学校運営協議会の開催予定は11月29日です。

以上

## 平成30年度第 2回学校運営協議会議事録

日時:平成30年11月29日(水)19:00~20:30

場所:秋津小学校 2階会話室

司会:教頭・小関 記録:河村

### 【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	9	社会福祉協議会秋津支部長	吉田 秀忠
2	秋津小学校PTA会長	小西 正大	10	市教育委員会指導課長	荒井 英治
3	秋津小学校PTA副会長	田中 里枝	11	市青少年センター所長	渡辺 雅和
4	秋津まちづくり会話副議長	伊藤 知遇	12	秋津小学校校長	鈴木 俊哉
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	13	秋津小学校教頭	斎藤 信幸
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	14	秋津小学校教務主任	河村 幸枝
7	学校支援ボランティア代表(情報)	小関 秀夫	15	秋津小学校生徒指導主任	砂押 恭平
8	学校支援ボランティア代表(環境)	桑名 英一(欠)			

### 1 会長挨拶

(小関)協議事項について細かく報告されている。内容のなる協議事項を行っていきましょう。

### 2 学校長挨拶

(鈴木校長)

ご来校ありがとうございます。まもなく2学期が終わります。年度当初懸念されておりました初任者や講師の件ですが、個人の能力もあります、若い先生方ががんばっています。コミュニケーション力があります。ベテランの教員のアドバイスを聞くこともでき、保護者からの苦情もなく学級をよくまとめております。運動会や秋津まつりなど順調に行われました。公開研究会も盛会に終わることができました。体育を研究していますが、体育だけにとどまらず、他の授業にも生かされてきていると感じています。自分の評価としては良い8か月になっています。しかし、これはあくまで主観なので、皆様のご意見をいただき、協議していただきたいと考えます。

### 3 報告 司会 小関

#### (1) 平成30年度第1回学校運営協議会議事録・・・資料1

教頭～資料に基づいて報告

#### (2) 平成30年度第1回～第7回パートナー会議議事録・・・資料2

教頭～資料に基づいて報告

#### (3) 2学期いじめアンケート結果 資料3

生徒指導主任砂押より 資料に基づき報告

(小関)以前は学年が書いてあったと思うが、今回はないが、学年によって事案の内容が違うのではないかと思うが、その件についてご意見はありますか。

(小西)6番の相談せずはどういうことだろうか。

(砂押)誰にも相談していない。理由はもっと悪くなるのではないかと思ったとのこと。

(荒井)今の補足ですが、昨年までのいじめアンケートは理由をこたえる欄がなかった。全国的に見

て、相談しない子がいる。そのため理由を書くことで配慮支援ができるのではないかと考え記入欄を設けている。

(砂押)全職員でこの案件について共有している。

(吉田)相談せずの理由は、もっとひどくなると考えたりプライド等あるかと思うが、今後どのようにしていくか。

(砂押)アンケートの結果、誰がどのようにはわかっているの、今後注意してみいていくことができるのではない。アンケートは毎学期行っているの。

(吉田)子供が危惧したことをどのように解消していくかが大切。その手立てを探していかななくてはいけない。

(砂押)アンケートから、その児童と面談を行い助言している。

(小関)アンケートによらない事案について、担任はどのくらい把握しているのか。普段の活動をみていて、どうなっているのかという気付きはあるのか。

(砂押)日々、いろいろな事案があるので、担任はそのつど指導をしている。子供たちへのかかわり方の指導を行っている。教育相談の期間には何かあったら聞き取りを行っている。

(渡辺)低い学年の場合、「いじめられている」が多い。教師の見立てと実際が違うことがある。高学年になるといじめられていても、あるに丸が付けられない。そのような場面はなきにしもあらず。担任がいじめがあるのではと気が付いた時にはアプローチをしているかが大切。アンケートに頼り切りにならないほうがよい。

(伊藤)仲間はずれの案件があるが、これがクラス全員か少人数が把握しているか。

(砂押)把握している。

(小関)6番と7番同じ。

(山下)10件は悪口等。ずっと言われているわけではないのだろうか？一度言われたから悪口言われたと、いじめになってしまう。叩かれたりが6件になるが、かなり重さが違うのではない。内容が違うからいじめでは？1学期から続いているのだろうか。

(砂押)事案による。

(玉井)18件のうち、低学年が多かったというが、1年生はどのくらいであったのか。アンケートの前に何かやられてたら、いじめと書いてしまうのか。相談せずの子が心配。虐待を受けている子は誰かに何かを頼ることができない。誰かに頼ることは悪いことではないと伝えてほしい。

(伊坂)アンケートの文言はどのようなものか。「いじめはありますか。」などの言葉で聞かれると「いいえ」と答えてしまうかも。「友達関係でつらいことはないか？」などの聞き方のほうがいいかのでは。個々の事案について、学校内で共有するかしないかの線引きはあるか。

〈砂押〉生徒指導の話し合いで共有している。

(伊坂)授業中より休み時間などにおきることがある。実習の大学生にも授業より休み時間が大切だと説いている。

(砂押)担任であった時には、日常の変化に対し感じるようにしている。

(伊坂)全体によくまとまっていると患った。グレーに関してもよく聞き取りしてくれている。

(吉田)先生の目の届かないところのいじめがよくある。近くの児童公園があり、遊ぶ子たちはいつも同じで、時々仲間外れというか、ぼつんとしている子がいる。「どうしたの？」と聞いても答ええない。1週間したらまた進んでいた。できれば、地域で進んでいる場所でそのような事案がないか見守ってくださるようお願いしてはどうか。民生委員の関係で巡回しているとよく目にする可能性がある。

(玉井) 子供の関係性がわかるのは下校時だと思う。勢い帰宅する様子を見ると悪口を言っているような場面も目にする。気になる子に関してはそのようなところをみてはどうか。

(小関) 学校教育の限界があるのがよくお分かりだと思う。だからこそ、地域がかかわるところだと思う。

(教頭) 本校の強みは一番多い学級で 32 名、少なくて 19 名。昨年のことですが異学年のトラブルがあった。そのようなところもよく見ていくところだと思う。地域の中での子供の密度は薄いと思うので、その中での目撃は困ったことではある。担任や職員が一丸になって子供たちの様子をみていく。職員会議で共通理解してより組んでいるのでご理解いただきたい。

#### (4) 秋津小学校実践紹介

教務主任 河村より 4 月行事～11 月まで 公開研究会について

(吉田) 私たちの活動が押しつけになっていないか。先生方は負担になっていないか。組み取れているか、より良い関係を築くためにも、もっと意見を言っていたきたい。ベストと思っているが受ける側ではどうなのか、敢えていただきたい。一度検討する機会を設けていただければと。もっとよくなる可能性がある。ブラッシュアップの必要性がある。

(校長) 今後の関係者評価で意見をとり、パートナー会議などで話し合っていく。

(玉井) 学校支援ボランティアとして負担になっていないか、言いにくい場合は調整をさせていただく。

(吉田) より良くして継続するために必要なことである。

(小関) 今年初めての先生方がいろいろ感じているのは？職員アンケート等、踏み込んでいるかと思うので学校運営をどのようにみていくか、教育課程の桂の中でどのように組み込むか。検討の余地がある。

(伊坂) 公開研究会の市内参加者が 10 名とは市外に比べ少ない。同じような時期にやるのでこのような結果になるのであろう。指導課長にはその点については考慮していただかないと。

(校長) 習志野市の体育の研究校が 3 校あるので、体育主任が参加することが多く、分散してしまいこのような数になる。

(伊坂) 体育主任にばかりではなく、初任の先生がみられるようなシステムをつくってほしい。津田沼小との差別化をしてはどうだろう。

(校長) 思考・判断のところで提案を行ったので感心が高く、たくさん参加いただいた。

### 3 協議事項

#### (1) 「学校関係者評価の実施と教育活動の改善 J」について・・・資料 5

教頭より

P8 に学校評価の今後の流れについて示した。今後の職員会議の資料もつけた。

～資料に基づき説明～

(小関) 資料がたくさんあるが、いかがでしょう。今回事前に資料をいただいたが、教職員教育課程について示されたのは初めてではないか。教頭先生が育ったように個人的な意見もあるが、問題山積ではないか。このひとつひとつにどのように取り組んでいくか、ご意見いただけるだろうか。個人的には新学習指導要領では新しいことが増えているので、コミュニティスクールが負担になってくるのではないかと思う。校長先生や教育委員会のご意見もあるのでお聞きしたい。個人的には教具の数が足りないと感じている。あと 2 年でつめていかなければならないの

で課題はある。ご意見はあるか。

(伊藤) 教員の数が足りないのは明らか。P10 わかりづらいので去年のようにグラフを載せるとよい。

平均点ではよくわからない。コメント重視で出していくとよい。

(小関) 以前はものすごい卓のデータが出てきた。あれもいかなものかと思うが。

(教頭) 今までの保護者アンケート形式とかわったので。

(伊坂) 2回必要なか思っていた。改善は何かと示すことが大切。その意味でも評価できる。

(渡辺) コミュニティスクールということで訪問者が多数来ているなかで、一番うらやましいと思われているのが教育支援システムの4つ。玉井さんのようなコーディネーターがいるのはうらやましがられる。何かあれば玉井さんに相談すればよいので安心。活動自体は子供たちの表情や作文をみれば満足しているかわかる。2年生とかであれば時数があるので実施に余裕があり可能であるが、学年が上がると授業時数の確保が難しい。指導計画も地域とのからみを考えているが、外国語が増えたりと難しい。その辺を職員アンケートを活用しながら来年度へ向けて考えていかなければ。

(吉田) アンケートを出されたときに、学校外に出ることを想定していたか。本音が書かれているのか。

(教頭) 本音です。

(伊坂) アンケートを拝見し、人が足りない。圧倒的な多忙感を感じる。教員は大変なことをやっていると思う。

(校長) やはりスクラップアンドビルドを考えていきたい。精選と削減することを考えていきたい。小学校は行幸が多いと感じることが多い。学年や全校で取り組むことが多い。校外学習に関しても考えていかななくてはならない。

(伊坂) 対処療法になってしまいがちとを感じるが。学級数が増え、教員が増えないと。

(小関) やはり法律があるので、そう簡単にはいかない。校長先生の裁王の中でやっていってもらえないといけない。

(校長) 順次検討を行っていきたいと考えている。次の会で示していければと考えている。

## 5 その他

### ○文部科学大臣表彰について

校長より 秋津小のパートナー会議が表彰を受けることになりました。

### ○第3回学校運営協議会の開催日について

教頭 2月28日(木)に開催いたします。

以上

## 平成30年度 第3回学校運営協議会議事録

日時:平成31年 2月28日(木)19:00～20:30

場所:秋津小学校 2階会議室

司会:教頭・小関 記録:河村

### 【出席者】

1	千葉大学教授	伊坂 淳一	9	社会福祉協議会秋津支部長	吉田 秀忠
2	秋津小学校PTA会長	小西 正大(欠席)	10	市教育委員会指導課長	荒井 英治
3	秋津小学校PTA副会長	田中 里枝	11	市青少年センター所長	渡辺 雅和
4	秋津まちづくり会議副議長	伊藤 知通	12	秋津小学校校長	鈴木 俊哉
5	学校体育施設利用団体代表	山下 晃	13	秋津小学校教頭	斎藤 信幸
6	民生主任児童委員	玉井 恵枝	14	秋津小学校教務主任	河村 幸枝
7	学校支援ボランティア代表(情報)	小関 秀夫	15	秋津小学校生徒指導主任	砂押 恭平
8	学校支援ボランティア代表(環境)	桑名 英一(欠席)			

#### 1 会長挨拶

(小関)

本日はご出席ありがとうございます。貴重な時間になっておりますので、ご意見いただければと思います。

#### 2 学校長挨拶

(鈴木校長)

学校運営協議会にご来校ありがとうございます。まもなく1年が終わりますが、自己評価となりますが当初設定した目標をある程度達成できたと考えております。これも皆様のご協力のお陰と考えております。本日は学校評価と来年度の教育課程について協議してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

#### 3 報告 司会 小関

(1)平成30年度 第2回学校運営協議会 議事録・1資料1

教頭～資料に基づいて報告

(2)平成30年度 第8回パートナー会議議事録…資料2

教頭～資料に基づいて報告

(3)学校評価集計結果から…資料3

教頭～資料に基づいて報告

(小関)学校評価についてご覧になっていかがですか。何かありましたらご意見をください。

学校評価については教育課程に反映されることが多いので、ご意見いただければと思います。

(渡辺)子供たちも保護者も、共感的なご意見をいただけていると思います。保護者のところからみると、意欲や学習の基礎基本についての数値が低めに出ているので、それに対して何かあればお聞かせいただきたい。

(小関)学習意欲が外国に比べ低いということを聞きます。いかがですか。

- (渡辺) 今、生涯学習部にいるので、小学校の道徳や外国語については詳しくはない。しかし自己肯定感が低めだということは理解している。
- (吉田) 日本人の気質や性別によって、自己評価が諸外国より低いようだが、学習意欲は高めだと思われる。その結果がどのように学習習得に結びついているのか、リンクさせて考えていかなければならないと思う。
- (教頭) 本年度の学力状況調査については学力的には高いが、質問紙については自己肯定感が低くなっている。それは単学級で競争が少ないことによるのではと思われる。
- (伊坂) 学校生活は楽しくしているが、勉強においては身が入らないことが多い。授業は工夫されていると思うが、基礎基本の定着についてもいかがか。
- (教頭) 基礎基本についてはプリント学習やミニテストなどを活用している。ICTの活用も積極的に行っている。
- (伊坂) 全ての授業に対して学生が評価をする時代になってきている。自分の授業の改善にもなるが考え方が様々。学生も指示待ちが多い。いろいろな可能性を与えて、自分で課題をみつけて解決していくことが求められている。課題として与えて達成感を得られる授業を各教科ごとに子供たちの意欲を喚起するためにどのようにしたらよいか事例を集め、共有していけばよいのではないか。単学級であれば、他校の先進的な取り組みについて研修・研修していけばよいのでは。ICTもよいのであるが、機械操作のおもしろさにとらわれてしまい、学びのおもしろさにひきつけられるようにしなければならない。例えば社会科のように素材のおもしろさからひきつけられる教科もあるので、次年度はそれぞれ教科主任の先生方が、他校の事例等を集めて研修していったらどうか。
- 学校の経営や改善点については、学校評価にかかわらず日常的に校長は考えていかなければならないと思う。しかし、学校評価をいただいたからには、そのアンケート結果が改善事項とリンクしていかなければならない。
- 人間関係ときまりについては保護者も自分の子供については、少な目に評価しているだろうし、子供たち自身も自分たちを厳しい目で見ていけるようにするためには、線引きしていかなければならないだろう。学校評価アンケートをどのように生かしていけるかが重要になってくる。
- 単学級の限界はあると思うが、他校との交流は可能なのだろうか。
- (小関) 学年ごとに集まるとは聞いたことがないが教科主体で
- (吉田) 教員の経験年数が少ないと、準備をしたり他校からもらったことを積み上げたりしなくてはいけない。経験年数が多ければ分けてもらえる。人数が多ければシェアができるので、人数も少なく経験年数が少ない場合は課題となり、どのように工夫して準備していけばよいかということになる。
- (小関) 今支援の先生がいますよね。
- (教頭) 今、支援員と少人数指導がいるので、ベテランで実績のある教員なので担任へのアドバイスもいただいている。
- (小関) 習志野市は指導主事も少ない。岐阜市は指導主事が多いので学校を巡回できる。習志野市の場合はそれも難しいので厳しいのではないか。
- (伊坂) 小学校の場合は専科はあまり多くない。音楽専科ぐらいか。学級担任制の良さもあると思う。習志野市は研究教科が決まっていることのメリットデメリットある。せっかくの研究を共有する機会がないのでは。とにかく今一番必要なのは、学習意欲をどのように引き出すかになる。
- (教頭) 学習意欲は見えないものである。1～3年生までは評価もないので、わが子の学力についてどの程度理解しているのか不安に感じているのが評価からわかる。

(伊坂)難しいことだが、保護者は数字に関心が高いが、学校は観点別評価が重要。その点を丁寧に指導していく必要がある。

(玉井)教科とはあまり関連していないが、時数が厳しくなっているなかで2年生のかかわりなども本当に必要なのか疑問もある。

(4)いじめアンケート・学校生活アンケート＝資料4

生徒指導主任 砂押より 資料に基づき報告

(小関)記名式と無記名式を行っているメリットは何か

(砂押)記名式は家庭に持ち帰るので、確認できる。無記名は時間をおいて行っているの、まだ解決していないのか、わかる。無記名の匿名性を生かしてはいるが。

(小関)今回のアンケートの数だけみると、高学年はない。数字をそのとおりとらえていいのか。

(砂押)いじめアンケートととかんれんして学校生活アンケートから人間関係に悩んでいる子もいるので気を付けてみていきな。

(小関)カウンセラーの利用については

(教頭)いじめに関してはあまりなく、精神面のフォローが主になっている。

(小関)アンケートではつかみきれないものに関して相談でひろえないか

(伊坂)認知件数についてはアンケートで出ているが、保護者が学校に訴えてきたものに関してはここに反省されていないので、その点については確認しているのか。アンケートの間で起きていることに関して、数値や記録が大切になってくる。アンケートに関しては、よく対応していることがわかる。ここに出ないものに関して対応してほしい。

アンケートをしなくても子供たちが直接担任に言っているものを大切にしてほしい。アンケートでなければ拾えないのでは困る。

(砂押)ご指摘の通り、アンケート以外の事例についても対応している。

(校長)県に挙げるものに関しては、普段の生活の中であがってきたものに入れるように指示しているので、実際の認知件数はこの数字より多くなっている。職員会議でも生徒指導について話し合っている。

(吉田)無記名式は指導後に行っているということか。無記名にすることの意義は

(砂押)無記名式で行うことで、言いやすくなるということもあるし、匿名性を高め、言いやすい状況にしている。

(山下)記名式で出ているのは全数ではないかもしれない。無記名式の子は一週間後の指導後であっても、もっと出てもよいのではないかと感じる。

(荒井)いじめアンケートの記名式と無記名式についてですが、これは指導課で作成し、全小中学校で実施している。以前は無記名式はやっていなかった。文科省は無記名式を推奨している。しかし、記名式でないと誰が困っているのかわからないという経緯から、家庭でしっかりと書いてもらう。無記名については学校でその場で書いてもらうものである。目的を変えて行っているの、ご理解いただきたい。

(小関)学校生活井活アンケートはいかがでしょうか

(教頭)傾向としてみていただければと思う。

(5)保健室利用状況・体力テスト等結果・・＝資料5

教頭～資料に基づいて報告

#### 4 協議事項

(1)「学校評価結果と教育活動の改善」について＝……資料

教頭より

(2)平成31年度教育課程について……資料6

(小関)クラブが少ないのは個人的に悲しいと感じる。時数に関する以外には何かありますか。

(伊坂)保護者に説明する場合は文科省は35週でカウントしているが実際は39週あるのになぜ足りないのか説明する必要がある。保護者にとっては目に見える形はあわかるが、どういう学力を目指しているのかが大切になっている。学びに向かう力が必要になってくる。皆さんの時代と目指しているものが違うということ、物差しが違うことを言っていけないといけない。目指す学力が違うことを説明しなくてはいけない。

その中で、評価のことが保護者には気になってくると思う。文科省自体もいろいろな議論が行われている。評価もこれから変わってくる。観点別評価に移行していくこと、保護者に説明する機会が必要になってくる。説明したほうがいいと思う。

(荒井)学校現場としては、早く知らせたいとは思いますが、根本の部分では説明をしっかりと

(伊坂)4月の保護者会などはいいのではないか

(渡辺)来年度からのモジュールということ朝の会は10分というのは現実問題としてはかなりしっかりいけないといけない。1時間削ったからにはきちんと行っていけないといけない。意識していかないと。

(校長)職員には自習ではなく学習だということを伝えていく。

(小関)その提案はこのメンバーの中では受け入れていく。

#### 5 その他

○次年度学校運営協議会の開催日について

〈開催日案〉

第1回 2019年 4月25日(木)

第2回 2019年11月28日(木)

第3回 2020年 2月27日(木)

(校長)開催時間を1時間ほど早めることは可能か。

(吉田)いいと思う。

(小関)その提案はこのメンバーの中では受け入れていく。

以上